

ちよつといし話

～ お彼岸 ～

「暑さ寒さも彼岸まで」。と気候はうつり変わります。霊界はそれだけではありません。我々の眼には見えないご先祖が子孫の生活を見て、烈火のごとく怒り、寒気がするほど身震いしてみえる。それ故、現代社会は昏迷を極めておるのでしょう、世の中が殺伐としているのは死に切れていない魂が浮幽霊と成って災いを起こしているわけです。そんな精霊は供養も難しく、年を重ねるに従って、ますます悪霊化してしまうのです。

法然上人は「願わくは弟子等、命終の時に臨（のぞ）んで、心てんどうせず、心錯乱せず、心失念せず。身心に諸の苦痛なく・・・」とおっしゃり死に向かう心のあるべき姿を述べて見えます。何時、訪れても不思議では無い命終、死期ですが、私達は時来たるを知れば来迎佛か念佛の掛け軸を準備して阿弥陀様の来迎を願い、称名念佛を以って清く極楽往生を決定したいものです。その為には心の寂静を保つ事がとても大切なのがお分かり頂けると思います。心身を清らかにするにはまずお香です（19号参照）。香には十種の功德あり、その中に、お香には鬼人も感動し心身を清浄にする、とあります様に身に着いた汚穢（けがれ）を取り除いてくれるのです。ですから朝夕の勤行には出来る限り良質のお香を用いてください。敬いの気持ちが増す事でしょう。

「摩訶般若波羅蜜多心経の波羅蜜多が彼岸に至る」とゆう意であります。彼岸とは悟りの境涯、極楽浄土のことです。お彼岸の法要は有縁、無縁の先祖各霊が深い悟りの境地に入れるよう供養し、お祈りする大切な儀式であります。我々が佛教を敬う彼岸の行事に参加する事によって先祖各霊が成仏出来、安心して暮らせる社会が訪れる事に成るでしょう。

願わくは此の功德を以って、普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆な共に、仏道を成ぜん事を

善入院油掛地藏尊